お祖師さまをお訪ねする物語 第7回

高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

お祖師さまがご晩年を過ごされた身延山（山梨県）。やはりこの地は、「法華経の聖地」といわれるだけあって、お祖師さまにまつわる重要なところなんだね。今回はご両親とお師匠（道善房）さまを偲ばれた「思親閣」と、お祖師さまのお墓である「祖廟塔」についてお話しするね。

お祖師さまは、身延でお過ごしの間、時折（ときどき）生れ故郷（千葉県小湊）のことを思い出されたんだね。そこで「西谷のご草庵」（先月号を読んでね）から道なき道を歩き、身延山の山頂（標高一一五三メートル）に登られたんだよ。

身延山の山頂でお祖師さまは、遠く離れた故郷の方向を向かれ、亡きご両親とお師匠の道善房さまを想われて（心に浮かべて）、御題目をお唱えになられたんだ。

お祖師さまが、ご両親とお師匠さまを想って登られた身延山の山頂に、「思親閣（久遠寺奥之院）」という名のお堂があるんだよ。これは、お祖師さまがお亡くなりになった翌年（弘安六年・一二八三）に、お弟子の日朗上人が建てたものなんだ。

山の麓（山の下）から山頂の「思親閣」まで、今ではロープウェイで七分ほどで登って行けるけど、当時は、およそ五十丁（五・五キロ）の険しい山道を、二～三時間かけて登って行ったのだから、とても大変だっただろうね。

思親閣の仁王門
身延山の山頂に「思親閣（久遠寺奥之院）」がある

お祖師さまは、身延山の山頂から遠く離れた故郷の方向を向き、ご両親とお師匠の道善房さまを偲ばれた。

身延山の山頂は、「親を思う所」という意味で「思親閣」と名づけられているけど、お祖師さまのご両親やお師匠さまに対する孝養（親に孝行をする、亡くなった人をしっかり供養すること）の深さは本当に立派だね。私たちも見習わ（みてマネをする）なくちゃね。

祖廟塔（お墓）

お祖師さまは、五十三歳で身延の山に入られたんだけど、それまでのご苦労の連続と、きびしい身延での生活でお身体がずいぶん弱くなられたんだよ。弘安五年（一二八二）の秋になると、誰の目から見ても、この冬はとても越せないだろうと思うほど健康状態が悪くなったんだ。

そこで弘安五年九月八日、お弟子やご信者の熱心なすすめもあって、常陸（茨城県）の湯へ養生（病気の回復につとめること）に行くために、八年四ヵ月を過ごされた身延の山を離れることになったんだね。

九月十八日、武蔵国（東京都）のご信者の池上宗仲さんの邸につかれたんだけど、そこからすすむことが出来ず、十月十三日にご遷化（お亡くなりになる）されたんだ。

お祖師さまの「墓をば身延の沢に（お墓を身延に）」というご遺言（亡くなった人が後の人に残した言葉）のとおりに、祖廟塔（お祖師さまのお墓）は、身延山の西谷のご草庵の近くに建てられ、ご遺骨（亡くなった人の骨）はそこに埋葬（死体や遺骨を土中にうめること）されたんだよ。

お祖師さまの祖廟塔の周囲には、樹齢数百年の杉の木々がそびえ立ち、お祖師さまのお弟子をはじめ、篤信（信仰のあつい）のご信者方のお墓もあるんだね。みんなも一度、機会（チャンス）があれば訪れるといいよ。

祖廟塔
「墓をば身延」にというご遺命にしたがって立てられたお祖師さまのお墓

身延山の山頂からの展望
晴れた日には富士山を見ることができる。お祖師さまもご覧になられたかも･･･